

宮崎県感染症週報

宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

宮崎県第44週の発生動向

□ 全数報告の感染症 (44週までに新たに届出のあったもの)

1 類感染症：報告なし。2 類感染症：結核 2 例。3 類感染症：報告なし。
4 類感染症：つつが虫病 1 例、日本紅斑熱 2 例。5 類感染症：破傷風 1 例、百日咳 5 例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型・類型	症状等
2類	結核	宮崎市	60歳代	男	肺結核	咳
			80歳代	女	肺結核	倦怠感
4類	つつが虫病	日向	80歳代	男	—	頭痛、発熱、リンパ節腫脹、発疹、肝障害
	日本紅斑熱	宮崎市	70歳代	女	—	発熱、刺し口、発疹、肝機能異常
		都城	70歳代	女	—	発熱、頭痛、発疹、肝機能異常
5類	破傷風	宮崎市	50歳代	男	—	筋肉のこわばり、開口障害、嚥下障害、発語障害、痙攣等
	百日咳	宮崎市	5~9歳	女	—	持続する咳
			10歳代	男	—	持続する咳、夜間の咳き込み
			40歳代	女	—	持続する咳
		延岡	0~4歳	女	—	持続する咳
		日南	5~9歳	女	—	持続する咳、夜間の咳き込み

□ 定点把握の対象となる 5 類感染症

・定点医療機関からの報告総数は 494 人(定点当たり 13.4)で、前週比 93%と減少した。なお、前週に比べ増加した主な疾患はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎と感染性胃腸炎で、減少した主な疾患はRSウイルス感染症と手足口病であった。

★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

【インフルエンザ】

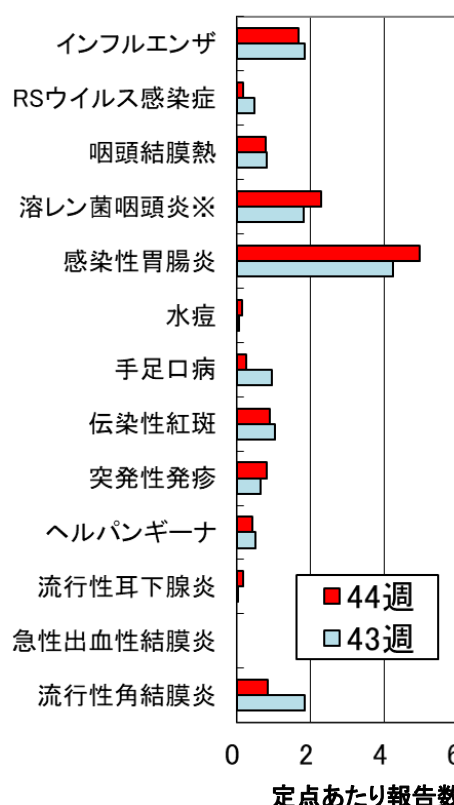
報告数は 99 人(1.7)で、前週比 92%と減少したが、例年同時期の定点当たり平均値* (0.19)の約 8.8 倍である。都城(3.9)、小林(2.4)、宮崎市(2.3)保健所からの報告が多く、年齢群別は別グラフに示す。

【伝染性紅斑】

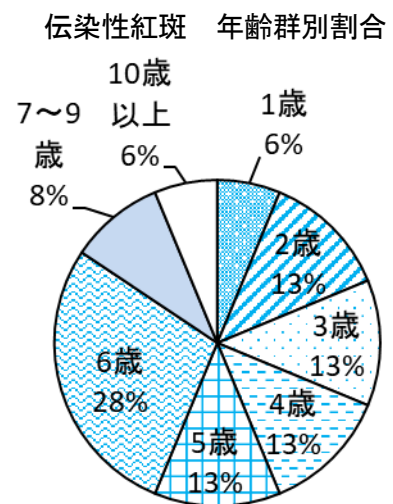
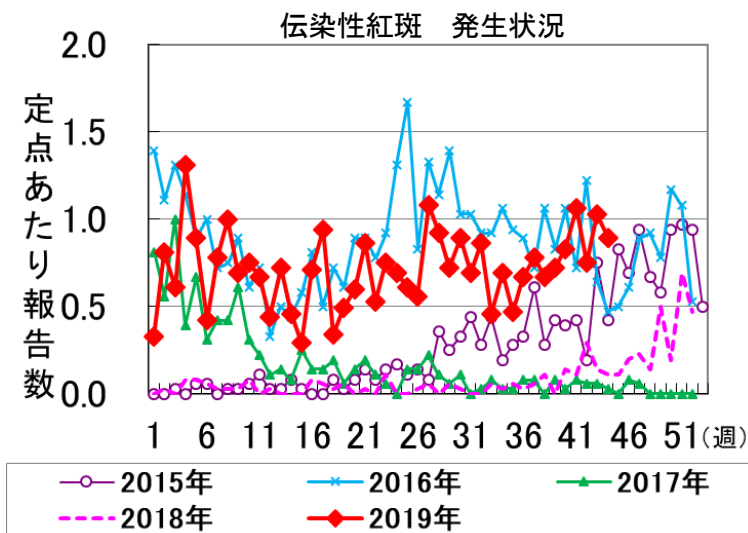
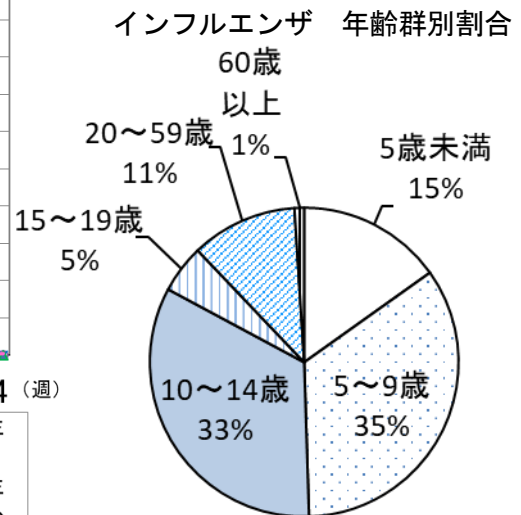
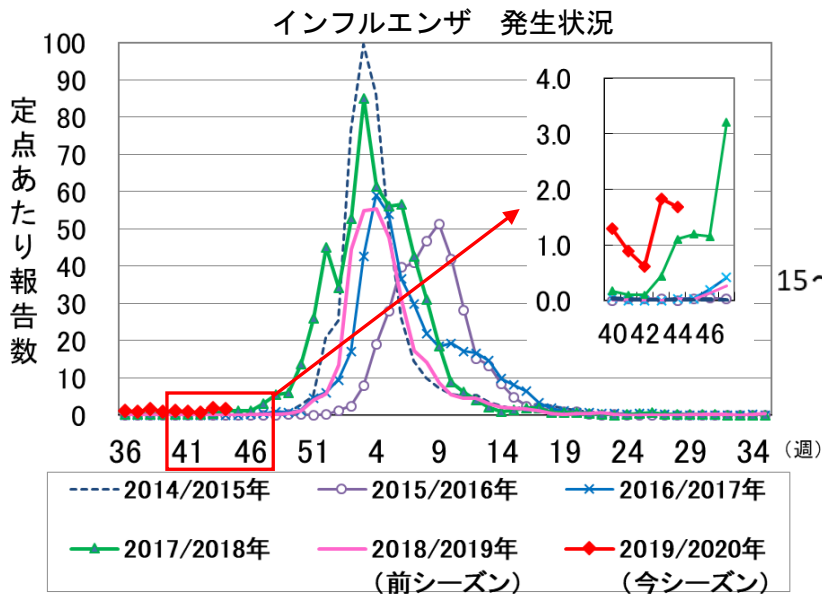
報告数は 32 人(0.89)で、前週比 86%と減少したが、例年同時期の定点当たり平均値* (0.28)の約 3.2 倍である。延岡(2.5)、日向(1.8)、都城(1.2)保健所からの報告が多く、年齢群別は別グラフに示す。

* 過去 5 年間の当該週、前週、後週 (計 15 週) の平均値

《前週との比較》



※ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



★基幹定点からの報告★ 報告なし。

★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値超過疾患★

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値超過疾患
宮崎市	なし
都城	なし
延岡	伝染性紅斑(2.5)
日南	なし
小林	なし
高鍋	なし
高千穂	なし
日向	なし
中央	水痘(1.0)

* 流行警報レベル開始基準値 *

・伝染性紅斑(2.0)

* 流行注意報レベル基準値 *

・水痘(1.0)

□病原体検出情報 (衛生環境研究所微生物部 令和元年 11月5日までに検出)

★細菌

同定細菌名	年齢	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	同定日
<i>Salmonella</i> Braenderup (O7:e,h:e,n,z15)	10歳代	男	2019.09.09	発熱(38.5℃)、胃腸炎(水様性下痢)	便	2019.09.19
<i>Salmonella</i> Mbandaka (O7:z10:e,n,z15)	5~9歳	男	2019.09.11	胃腸炎(水様性下痢)	便	2019.09.20
<i>Salmonella</i> Thompson(O7:k:1.5)	5~9歳	女	2019.09.19	発熱、胃腸炎(水様性下痢、腹痛)	便	2019.09.27
<i>Salmonella</i> Miyazaki (O9:l,z13:i.7)	5~9歳	男	2019.09.30	水様性下痢	便	2019.10.08
<i>Salmonella</i> Schwarzengrund (O4:d:1.7)	20歳代	女	2019.10.11	無症状	便	2019.10.23
EPEC(O157:H7 VT1.2)	10歳代	男	2019.09.30	無症状	便	2019.10.08
EHEC(O157:H7 VT1.2)	10歳代	男	2019.10.02	下痢、発熱、腹痛、嘔吐	便	2019.10.08
<i>Salmonella</i> Braenderup (O7:e,h:e,n,z15)	10歳代	男	2019.10.18	発熱(38.0℃)、胃腸炎(水様性下痢、嘔気、嘔吐、血便)	便	2019.10.26
EHEC(O157:H7 VT1.2)	5~9歳	男	2019.10.21	発熱(39.7℃)、下痢、血便、腹痛	便	2019.10.28

○10代前半の男性と5～9歳の男児から腸管出血性大腸菌（EHEC 0157：H7 VT1, 2）が分離された。EHECの分離件数は夏季に増加する傾向があるが、例年秋から冬にかけても分離されており今後も注意が必要である。

★ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取年月日	臨床症状等	検出材料	分離・検出日
ヒトメタニューモウイルス	0～4歳	女	2019. 08. 29	急性上気道炎、40.1℃、熱性けいれん、気管支炎	咽頭ぬぐい液	2019. 10. 25
アデノウイルス3型	10歳代	男	2019. 09. 03	流行性筋痛症疑い、37.3℃、鼻水、咽頭痛、筋肉痛、めまい、吐気	咽頭ぬぐい液	2019. 10. 29
デングウイルス	20歳代	女	2019. 10. 24	デング熱疑い、40.0℃、関節痛、筋肉痛、咽頭痛、肝機能異常	血清	2019. 10. 24

○鼻水・咽頭痛・筋肉痛等の症状を呈する小児よりアデノウイルス3型が検出された。アデノウイルスは50以上の血清型があり、型によって胃腸炎や出血性膀胱炎、流行性角結膜炎など症状が異なる。3型は主に咽頭結膜炎（プール熱）などの急性呼吸器疾患に関連する。

○海外より入国した成人女性からデングウイルスが検出された。デングウイルスはデング熱及びデング出血熱の原因ウイルスであり、当該ウイルスを保有するネッタイシマカ、ヒトスジシマカに刺されることにより感染する。近年、デング熱は世界的な拡がりをみせており、日本にもヒトスジシマカが生息しているので、注意が必要である。

🇯🇵 全国 2019 年第 43 週の発生動向

□ 全数報告の感染症（全国第 43 週）

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	253 例				
3類感染症	細菌性赤痢	2 例	腸管出血性大腸菌感染症	70 例	腸チフス	1 例
4類感染症	E型肝炎	9 例	A型肝炎	7 例	重症熱性血小板減少症候群	3 例
	チクングニア熱	1 例	つつが虫病	6 例	デング熱	8 例
	日本紅斑熱	12 例	日本脳炎	1 例	マラリア	1 例
	ライム病	1 例	レジオネラ症	39 例		
5類感染症	アメーバ赤痢	5 例	ウイルス性肝炎	4 例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	36 例
	急性弛緩性麻痺	1 例	急性脳炎	12 例	クロイツフェルト・ヤコブ病	3 例
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	8 例	後天性免疫不全症候群	12 例	ジアルジア症	1 例
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	5 例	侵襲性肺炎球菌感染症	26 例	水痘（入院例）	5 例
	梅毒	59 例	播種性クリプトコックス症	4 例	破傷風	2 例
	百日咳	245 例	風しん	7 例	麻しん	2 例

□ 定点把握の対象となる5類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比 101%とほぼ横ばいであった。なお、前週と比較して増加した主な疾患はインフルエンザと伝染性紅斑で、減少した主な疾患はRSウイルス感染症と手足口病であった。

インフルエンザの報告数は 3,953 人(0.80)で前週比 111%と増加しており、例年同時期の定点当たり平均値* (0.24)の約 3.3 倍である。沖縄県(8.7)、宮崎県、北海道(各 1.8)からの報告が多く、年齢群別では 10 歳未満が全体の約半数を占めている。

伝染性紅斑の報告数は 1,846 人(0.58)で前週比 132%と増加しており、例年同時期の定点当たり平均値* (0.25)の約 2.3 倍である。大分県(2.3)、福岡県(1.5)、佐賀県、熊本県(各 1.4)からの報告が多く、年齢群別では 3～6 歳が全体の約 6 割を占めている。 * 過去 5 年間の当該週、前週後週（計 15 週）の平均値

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2019年 第44週(10月28日～11月03日)

疾病名		第43週	第44週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	108	99	36	39		3	12	5	3	1	
	定点当り	1.83	1.68	2.25	3.90	0.00	0.60	2.40	0.83	1.50	0.17	0.00
RSウイルス 感染症	報告数	17	6		2			3			1	
	定点当り	0.47	0.17	0.00	0.33	0.00	0.00	1.00	0.00	0.00	0.25	0.00
咽頭結膜熱	報告数	29	28	13	8	2			3	2		
	定点当り	0.81	0.78	1.30	1.33	0.50	0.00	0.00	0.75	2.00	0.00	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	65	82	29	18	7	11	2	3	1	5	6
	定点当り	1.81	2.28	2.90	3.00	1.75	3.67	0.67	0.75	1.00	1.25	6.00
感染性胃腸炎	報告数	152	178	30	31	10	16	20	22	7	34	8
	定点当り	4.22	4.94	3.00	5.17	2.50	5.33	6.67	5.50	7.00	8.50	8.00
水痘	報告数	3	5	1		1	2					1
	定点当り	0.08	0.14	0.10	0.00	0.25	0.67	0.00	0.00	0.00	0.00	1.00
手足口病	報告数	34	9	3	1	3			1		1	
	定点当り	0.94	0.25	0.30	0.17	0.75	0.00	0.00	0.25	0.00	0.25	0.00
伝染性紅斑	報告数	37	32	4	7	10		3	1		7	
	定点当り	1.03	0.89	0.40	1.17	2.50	0.00	1.00	0.25	0.00	1.75	0.00
突発性発しん	報告数	23	29	9	5	7	2	1	4		1	
	定点当り	0.64	0.81	0.90	0.83	1.75	0.67	0.33	1.00	0.00	0.25	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	18	15	10	1	2	1				1	
	定点当り	0.50	0.42	1.00	0.17	0.50	0.33	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	1	6	1		3						2
	定点当り	0.03	0.17	0.10	0.00	0.75	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	2.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	11	5	5								
	定点当り	1.83	0.83	1.67	0.00	0.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ 肺炎	報告数	1										
	定点当り	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

●全数把握対象疾患累積報告数(2019年第1週～44週)

2類感染症	結核	171例(2)		
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	41例	腸チフス	1例
4類感染症	E型肝炎	1例	A型肝炎	3例
	チクングニア熱	1例	つつが虫病	5例(1)
	日本紅斑熱	6例(2)	レジオネラ症	8例
5類感染症	アメーバ赤痢	4例	ウイルス性肝炎	3例
	急性弛緩性麻痺	1例	急性脳炎	4例
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	10例	後天性免疫不全症候群	4例
	水痘(入院例)	1例	梅毒	18例
	破傷風	2例(1)	百日咳	275例(5)
	麻しん	1例		
			カルバペネム耐性腸内細菌感染症	13例
			クリプトスポリジウム症	1例
			侵襲性肺炎球菌感染症	11例
			播種性クリプトコックス症	1例
			風しん	1例

()内は今週届出分、再掲